


 巻頭言

エチオピア国歌をめぐって

柘植洋一

1980年夏、クレムト（大雨期）のある日、エチオピアの子ども達の歌を録音しようと、数人の子ども達に声をかけた。マイクの周りに集まって彼らが歌い始めたのは、私が期待していた伝承された遊び歌やお祭りの歌ではなく、イサパアコ（エチオピア労働者党設立準備委員会のアムハラ語の略称）、赤旗、革命などの単語が満載の歌、さらにアムハラ語版の「インターナショナル」などであった。学校でこのような歌を繰り返し教えられていたのである。そのうちこの光景を見ていた年長の男が子ども達に何やら言って、「一、二、三」とかけ声をかけた。皆が歌い出したのは、「エチオピア、エチオピア、エチオピア、前進せよ」で始まり、「あなた（＝エチオピア）の敵たちは滅び、あなたが永遠に生きんことを！」という歌詞で終わる、1975年に作られた社会主義エチオピアの国歌であった。この曲はエチオピアの第2代目の国歌であり、その後1991年まで命脈を保った。

そこで、私は数年前までその地位にあった、以前の国歌を歌ってほしいと頼んだが、子ども達は歌わなかった。知らなかったのかも知れないし、知っていてももちろん歌えるような状況ではなかった。この国歌は、1930年ハイレセラシエ皇帝即位後に制定されたエチオピア初の国歌で、「我らが勝者たる皇帝が、我らの栄光のために命永からんことを！」という歌詞が示すように、全体に皇帝を讃える内容を持つ。作曲者はその後のエチオピア音楽の発展に大きな影響を与えたアルメニア出身のお雇い外国人 Kevork Nalbaldian であり、あのアベベ選手の表彰式で流れたのもこのメロディーである。

第3代目となる現在の国歌「前進せよ、愛する母なるエチオピアよ」は、社会主義体制の崩壊後、1992年に制定されたもので、連邦民主制の理念に則った内容の歌詞をもっている。

以上はいわば真正銘の国歌であるが、そのほかにも括弧付きの「エチオピア国歌」ともいうべきものがある。その一つは、ジャマイカのバンド The Ethiopians のリーダー Leonard Dillon の手になる、Ethiopian National Anthem というそのものずばりの曲である。彼らの1977年発売のアルバムの1曲目をかざる、力強く、ラスタ的な思想に基づく宗教的な崇高ささえ感じさせる、優れた曲である。一方、関西圏を中心とする人気TV番組「探偵ナイトスクープ」では、実はエチオピアとは全く無関係の「エチオピア国歌」が取り上げられた。これは、「オーロベッチャン オーローヤ、オーロベッチャン サルポニタン……」という摩訶不思議な歌詞を持つ曲だが、リサーチの結果は、ある種のサークル内で歌い継がれた意味無しの歌であるが、いつ頃どこで作られたのか、また何故「エチオピア国歌」という名前がついているのかも分からないとのことであった、と記憶する。

最後は謎の「エチオピア国歌」である。この曲は、日本で1969年に出版された『世界の旅6 アフリカ』（河出書房）という本の付録のレコードのB面に、「コンゴ国歌」「ケニア国民歌」とともに、「エチオピア国歌」として収められており、本には楽譜も載せられている。年代的には、当然先に挙げた帝政期の国歌であるはずだ。しかしながら、演奏されているのは全く別の曲なのである。当時の東アフリカの他の国の国歌かも知れないが、今のところ私には正体不明のままである。

エチオピアでは政体の交替にともなって3つの国歌が生まれ、うち2つは公的な場面から消えた。2020年東京オリンピックでエチオピア人の優勝者を讃える際には、現行の国歌が流れるのだろうか。それとも別の曲なのか？ また歌詞はこれまではエチオピアの公用語あるいは中央政府の作業語としての地位を持つアムハラ語であったが、ひょっとして別の言語が取って代わっているのだろうか。

（つげ よういち／金沢大学名誉教授）